



2026年7月号 柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2026 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.
無断での転載・複製・改変等をご遠慮ください。

7月号 柳沢プログラム

7月の運動あそび ～短縄跳びにつながるカ～

跳躍力

- ▶ ウサギ
- ▶ 線路グーパー跳び
- ▶ 忍者カンガルーの縄越え
- ▶ カンガルー
- ▶ カップタッチカンガルー
- ▶ 忍者カンガルーが転んだ

跳躍力+動体視力

- ▶ 大縄の走り抜け
- ▶ 大縄跳び
- ▶ いじわる縄跳び
- ▶ 小波跳び
- ▶ 回転大縄跳び
- ▶ 短縄跳び

7月のコラム

運動プログラム応用アレンジ

作業療法士による発達支援コラム

アクティビティ紹介

職員インタビュー

- ▶ トンネルコロコロ
- ▶ お子さんの発達を促すサーキット遊びについて
- ▶ 雨の日も楽しく！人気の集団あそび特集
- ▶ 運動遊びと療育支援
こどもプラス柏たなか教室 M先生



今月の運動あそび

跳躍力

ウサギ

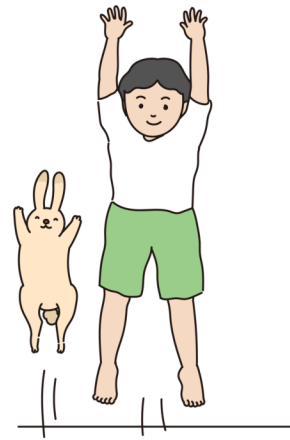
- ✔ 養われる力：跳躍力・模倣力
- ✔ 用意する道具：なし

あそび方

- ・腕を伸ばし耳につける
- ・その場でジャンプをする

声掛けのポイント

ウサギさんぴょんぴょん！



教室職員様
専用QRコード



カンガルー

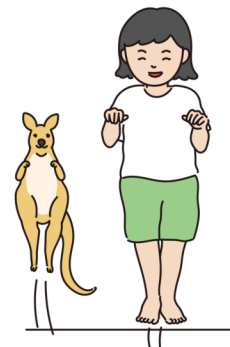
- ✔ 養われる力：跳躍力・模倣力
- ✔ 用意する道具：なし

あそび方

- ・胸の前に手を置く
- ・両膝をくっつけた状態でその場でジャンプをする

声掛けのポイント

足の間にお手紙を挟むよ。
落とさないようにジャンプしてみよう！



教室職員様
専用QRコード



気をつけるポイント

ジャンプの時に足が開いてしまう場合は、膝の間に紙などを挟んで「落とさないようにジャンプするよ」と声掛けをしましょう。

～短縄跳びにつながる力～

跳躍力

線路グーパー跳び

- ✔ 養われる力：跳躍力・空間認知力・イメージ力・リズム感
- ✔ 用意する道具：大縄等

あそび方

- ・テープや大縄で線路をつくる
- ・線路の内側がグー、線路の外側がパーになるように、線路上をジャンプしながら進む
- ・「グー」「パー」と声を出しながら一定のリズムで進んでいく

声掛けのポイント

声も出しながら身体動かすよ！
グー！パー！

気をつけるポイント

線路を踏まないように、手と足を大きく使ってグーパー跳びを行きましょう。
慣れてきたら線路の幅を広くして難易度を上げてみましょう。



教室職員様
専用QRコード



カップタッチカンガルー

- ✔ 養われる力：跳躍力・身体コントロール力
- ✔ 用意する道具：マーカーコーン・フープ

あそび方

- ・スタート地点とゴール地点にフープを設置し、間にマーカーコーンをランダムに配置する
- ・スタート地点に立ったら、両膝をくっつけ腕を振りながらマーカーコーンに向かってジャンプする
- ・しゃがんでマーカーコーンをタッチしながらゴール地点まで進む

声掛けのポイント

次は赤だけにタッチして戻ってきてもう！
「トマトの色」と「バナナの色」にタッチしてきてください

気をつけるポイント

大縄跳びや跳び箱などで必要とされる着地をする際のバランス感覚を養うことができます。
しゃがんだまま移動してしまう場合は、マーカーコーンの位置を離して、大きなジャンプをするように伝えましょう。



教室職員様
専用QRコード



今月の運動あそび

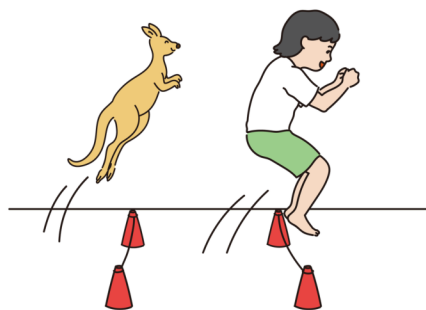
跳躍力

忍者カンガルーの縄越え

- ✔ 養われる力：跳躍力・身体コントロール力・空間認知力
- ✔ 用意する道具：三角コーン・ゴム紐

あそび方

- ・2本のコーンの間にゴム紐を渡し、跳び越える障害物をつくる
- ・両足を揃え腕を大きく振って、ゴム紐をよく見て静かに跳び越す
- ・慣れてきたら、跳び越える障害物の高さを高くする



声掛けのポイント

カンガルーさんはお腹の袋に赤ちゃんを乗せているから静かにジャンプするよ！

気をつけるポイント

大きな音を立てないために、膝を曲げてクッションを使い、足の指先からの着地を意識しましょう。
足の指先の力がつくため、より跳躍力が養われ、転ばないための踏ん張る力も養うことができます。
障害物を複数用意して行ってみてもよいでしょう。

教室職員様
専用QRコード



忍者カンガルーが転んだ

- ✔ 養われる力：跳躍力・空間認知力・バランス感覚・協調性・抑制力
- ✔ 用意する道具：フープ

あそび方

- ・スタート地点がわかるようにフープを設置する
- ・鬼の「だるまさんが転んだ」の掛け声の間、カンガルーのジャンプで鬼のところまで進む
- ・鬼にタッチしたら、スタート地点のフープまでカンガルーのジャンプで逃げる
- ・タッチされた鬼もカンガルーのジャンプで追いかける



声掛けのポイント

忍者は音を立てずに近づくよ！
鬼が見たときにピタッと止まってね！
どうやったらピタッと止まれる？

気をつけるポイント

逃げるときにぶつかる危険性がある場合は、タッチしたらおしまいにするなどのルールを設定するといいでしょ。

教室職員様
専用QRコード



～短縄跳びにつながる力～

跳躍力＋動体視力

大縄の走り抜け

- ✔ 養われる力：跳躍力・動体視力・集中力
- ✔ 用意する道具：大縄・マーカーコーン

あそび方

- ・職員は一定の速度で大縄を回す
- ・こどもは大縄の動きをよく見てタイミングを計り、回っている大縄の間を走り抜ける
- ・慣れてきたら、2人組で手をつなぎ一緒に走り抜ける

声掛けのポイント

(怖がる場合は)「せーの」で一緒に入ってみよう！
「せーの」や「今だ！」

気をつけるポイント

走り抜けるタイミングが合わない場合や、恐怖心で走り出せない場合には、職員が「今だ」と声をかけたり、職員や上手な子と手を繋いだりして、タイミングをつかめるよう支援しましょう。
どうしても怖いこどもには、職員が大縄の速度を調整して当てないようにし、まずは立ち止まらず走ることを習得しましょう。

教室職員様
専用QRコード



小波跳び

- ✔ 養われる力：跳躍力・動体視力・協調性
- ✔ 用意する道具：大縄

あそび方

- ・こどもは跳ぶときに膝が開かないよう足の間に紙やマーカーコーンなどの薄いものを挟む
- ・職員は大縄を回さず、一定のリズムで左右に揺らす
- ・持ち手の方を向いた状態で、大縄の動きを予測しながら同じ位置で跳ぶ

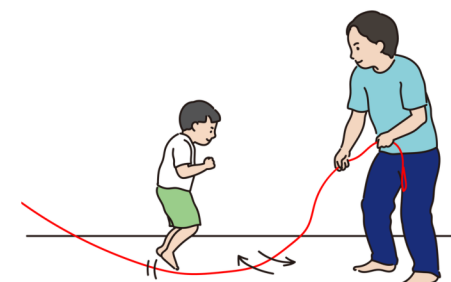
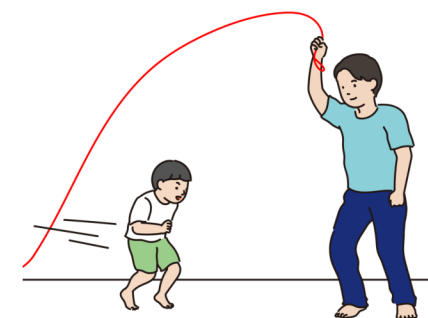
声掛けのポイント

お膝に入っているお手紙を落とさないようにジャンプしよう！
「1、2、3、4、…」と数を数える。

気をつけるポイント

持ち手の方を向いて、横目で両方向に動く大縄の動きを見ながら跳ぶと、うまく跳ぶことができます。足だけでジャンプしようとするとうまく跳べないことがあります。
腕を大きく振り、振り上げるときに身体を持ち上げるようにジャンプすると、膝が離れずにジャンプができます。
大縄を追いかけて横方向にジャンプしてしまう場合もあります。同じ位置で跳べるよう、職員がその場で垂直にジャンプする見本を見せたり、足元に目印を作るとよいでしょう。

教室職員様
専用QRコード



今月の運動あそび

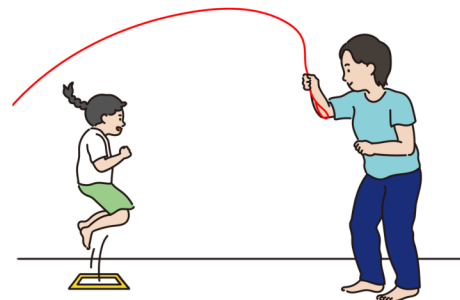
跳躍力+動体視力

大縄跳び

- ✓ 養われる力：跳躍力・動体視力・協調性
- ✓ 用意する道具：大縄

あそび方

- ・床に着地位置を指定する目印を作り、こどもはその中に立つ
- ・職員は、大縄を回しながらジャンプのタイミングを伝える
- ・回し手の方に身体を向け、目印の中から出ないように、腕を振りながら、一定のリズムでジャンプする



声掛けのポイント

四角の外は川になってるから落ちないようにこの中で跳ぶよ！

気をつけるポイント

跳ぶタイミングに合わせて「ジャンプ、ジャンプ」と声をかけます。ジャンプをするときに、体を大縄の方に向けてと目印の中から出てしまいがちなので、体は回し手の方に向けて、ジャンプするようにしましょう。

教室職員様
専用QRコード

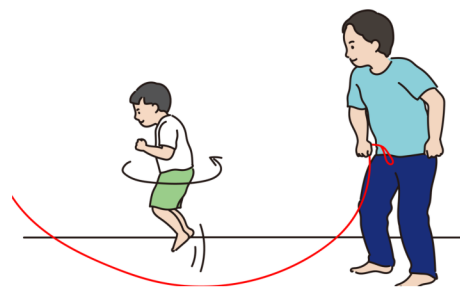


回転大縄跳び

- ✓ 養われる力：跳躍力・動体視力・身体コントロール力・協調性
- ✓ 用意する道具：大縄

あそび方

- ・職員は大縄をゆっくり大きく回す
- ・こどもは同じ位置で腕を振りながらジャンプする
- ・ジャンプのタイミングで体の向きを変えながらジャンプし、回転する



声掛けのポイント

「1、2、3、4、…」など回数をカウントする。または、「回る、回る、回る、…」とリズムよく声がけ。

気をつけるポイント

腕を振ることを意識することで一定のリズムでジャンプすることができます。同じ位置でジャンプができるように足元に目印を描いておいてもいいでしょう。

教室職員様
専用QRコード



～短縄跳びにつながる力～

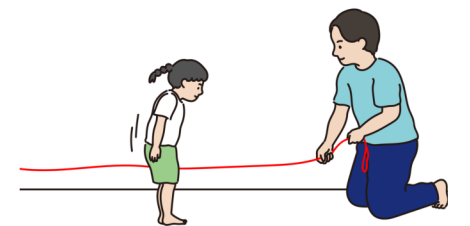
跳躍力+動体視力

いじわる縄跳び

- ✓ 養われる力：跳躍力・動体視力・判断力・抑制力・協調性
- ✓ 用意する道具：大縄

あそび方

- ・職員は大縄を回さず、ゆっくり左右に揺らす
- ・こどもは、体を持ち手に向けて、大縄が足元にきたタイミングでジャンプする
- ・職員は途中で大縄を引き、動きを止める
- ・こどもは大縄の動きをよく見て、大縄が止まったら、自分の体もピタリと止める



声掛けのポイント

縄が足のところにきたらジャンプするよ！
「ジャンプ・ジャンプ・止まる・・・」などと止まるタイミングを声かけ。

気をつけるポイント

大縄が足元にあるときに動きを止めると、足が引っ掛かり転倒する危険性があるため注意しましょう。大縄がたるんでいると判断しにくいので、はっきりと分かるように後ろに大きく引いて動きを止めます。こどもがしっかりと大縄を見ているか確認しながら行いましょう。同じ位置でジャンプができるように足元に目印を描いておいたり、回し手の方に体の正面を向けるよう声をかけましょう。

教室職員様
専用QRコード



短縄跳び

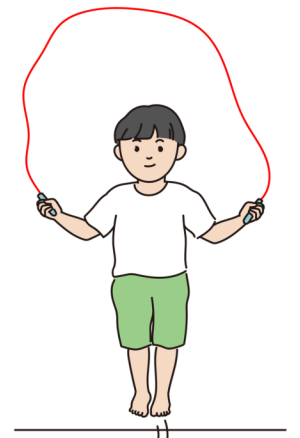
- ✓ 養われる力：跳躍力・動体視力・身体コントロール力
- ✓ 用意する道具：短縄

あそび方

- ・短縄を持ち、一定のリズムで前回り跳びを行う
- ・前回り跳びができれば、縄1回転の間に2回ジャンプをする
- ・2回ジャンプができれば、縄1回転に3回ジャンプに挑戦する

声掛けのポイント

「1・2・3・4・・・」など回数をカウントする。
手は止めないように回してみよう！



気をつけるポイント

言葉で説明するだけでは伝わりにくいので、職員が見本を見せて行います。縄1回転の間に2・3回のジャンプを行うためには素早くジャンプを行うことがポイントです。手の動きを止めないように意識して行います。

教室職員様
専用QRコード



運動プログラム 応用アレンジ

こどもプラス直営教室で実施している運動あそびをご紹介します。
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

トンネルコロコロ

- 何人で遊ぶ?** 1人から遊ぶことができます。
何を使って遊ぶ? 用意するものは、ボールです。
どこで遊ぶ? 教室、お家の広いスペースで遊ぶことができます。

養われる能力

ボールを見ながら体を動かす力につながる?

➡ 空間認知力・視機能

空間認知力は、物の位置や向き、速さ、距離感などを正しく捉える力です。
 また、視機能は、目で見たと情報をもとに適切に体を動かす力です。
 転がってくるボールの位置や動きを目で追いながら、タイミングを合わせて足を動かすことで、見る力や、目と体を協調して動かす力につながります。
 スポーツや自転車の操作、文字を書くことや図形を理解することなどにも関わる力が養われます。

すばやく反応する力につながる?

➡ 反応力

反応力は、見たり聞いたりした情報に対して、すばやく体を動かす力です。
 転がってくるボールを見て足を開いたり、お尻で止めたりすることで、状況に合わせてすばやく動く力が養われます。

⚠ 気をつけるポイント

- 壁の近くで行なうと、足の下を通ったボールが壁に当たって跳ね返り、踏んで転んでしまう可能性があります。
 転がしたボールはその都度回収するか、周囲に十分な広さがある場所で行なうようにしましょう。

運動の説明

1 複数のボールを用意し、大人とお子さんと向かい合います。

3～5個ほどボールを大人側に用意し、お子さんと1～2mほど離れて向かい合います。お子さんは、肩幅くらいに足を開いて立ち、転がってくるボールを見られるように大人の方を向いて準備しましょう。



2 大人はお子さんに向けてボールを転がします。

大人は、お子さんの右側や左側に向かってボールを転がします。お子さんは、転がってくるボールに当たらないように、タイミングを合わせて足を大きく開き、足の下にボールを通します。ボールをよく見ながら、体をすばやく動かしてみましょ。慣れてきたら、左右交互に転がしたり、続けてボールを転がしたりして行なってみましょ。



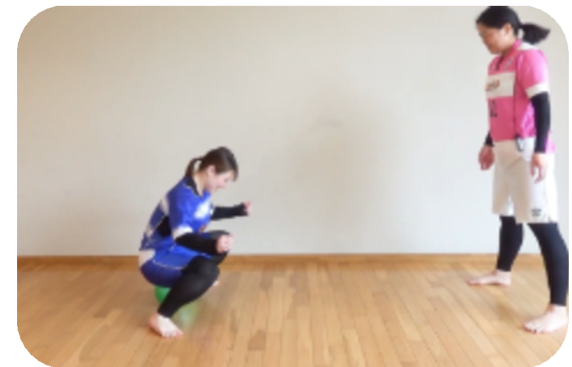
【難易度を下げる】 コーンをまたぎながら歩いてみましょ。

コーンを一列に並べ、コーンをまたぐように足を大きく開きながら歩いてみましょ。足を大きく開く動きに慣れてから、ボールを使ったあそびに挑戦してみましょ。



【難易度を上げる①】 お尻でボールを止めてみましょ。

転がってきたボールを、まずは足を開いて足の下に通します。ボールが足の下を通ったら、すぐにしゃがんでお尻でボールを止めてみましょ。ボールの動きに合わせて体を動かすことで、すばやく反応する力につながります。



【難易度を上げる②】 フープで行なってみましょ。

ボールの代わりに、直径40cmくらいのフープを縦に転がします。お子さんは、転がってくるフープに当たらないように、タイミングを合わせて足を開き、ジャンプしてまたぐように避けてみましょ。お子さんの体格や動きに合わせて、フープの大きさや転がす速さを調整してください。



作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

お子さんの発達を促すサーキット遊びについて

サーキットあそびは、楽しみながら様々な体の使い方を経験できる運動あそびです。体を動かす力だけでなく、順番を守る、ルールを理解する、お友達と関わるなど、多くの力につながっていきます。また、お子さんの様子や目的に合わせて内容を調整しやすく、成功体験を積み重ねやすいことも特徴です。今回は、サーキットあそびで育つ力や、ご家庭でも取り入れやすい工夫についてご紹介します。

サーキットあそびとは

サーキットあそびとは、アスレチックのように複数の課題を順番に進んでいく活動です。例えば、マット・平均台・跳び箱などを組み合わせ、コースを作って行ないます。サーキットあそびには、多くの感覚や様々な体の使い方を経験できる良さがあります。普段、運動に参加しづらいお子さんでも、種目を工夫することで取り組みやすくなり、成功体験にもつながりやすくなります。また、順番を守る、ルールを理解する、お友達と譲り合うなど、コミュニケーション面の練習にもつながります。さらに、最後までコースをやり切ることで達成感を味わいやすく、「できた」という経験が自信につながっていきます。そのため、お子さんが「少し頑張ればできる」難易度に挑戦することが大切です。難しすぎる内容ではなく、成功体験を積み重ねられる活動を取り入れていきましょう。

サーキットあそびで育つ力

サーキットあそびの種目は、目的に合わせて組み合わせることで、より効果的になります。例えば、次のような力につながる活動があります。

体幹・バランス

- バランスストーン
- 綱渡り
- 平均台

懸垂力

- りんごぶら下がり
- サルクレーン
- 逆上がりキック

固有感覚

- ぶら下がり系の活動
- ラダーウォール
- 綱引き

支持力

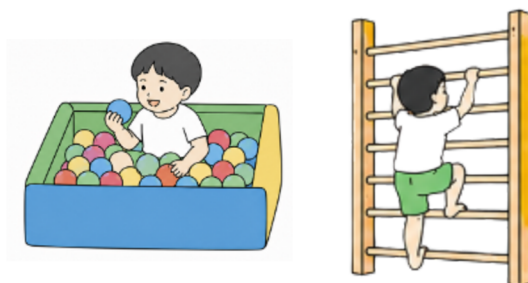
- イヌ
- クマ
- 1本線クマ歩き
- カエルジャンプ

前庭感覚

- 焼き芋洗い機
- トランポリン
- 回転ディスク

ボディイメージ

- ボールプール
- トンネル
- ラダーウォール



サーキットあそびの例



サーキットあそびでは、様々な運動を組み合わせることで、一度に多くの体の使い方を経験することができます。さらに側転・開脚跳び・短縄跳び・逆上がりなどの、最終目標につながる力を意識した内容にするなど、目的に合わせて工夫することもできます。また、活動前に体をしっかり動かして気持ちを切り替えたいお子さんなど、お子さん一人ひとりの様子に合わせて内容を調整することも大切です。

考える力につながる工夫

慣れてきたら、さらにルールを追加することで、考える力につなげることもできます。例えば、

- 指定された色のボールをゴールに入れる
- 順番を覚えて進む
- 合図を聞いて動きを変える

などの工夫を取り入れることで、記憶する力や注意する力を使いながら活動することができます。ルールを少しずつ増やすことで、「考えながら体を動かす経験」につながり、活動の幅も広がっていきます。

サーキットあそびを通じた支援

サーキットあそびは、お子さんの様子や目的に合わせて内容を調整しやすく、多くの力を育てることができる活動の一つです。「できた」という経験を積み重ねることで、自信や意欲にもつながります。お子さん一人ひとりに合わせて、楽しく取り組める活動を取り入れながら、成功体験を増やしていくことが大切です。今後も、療育やご家庭で役立つ情報を分かりやすくお届けしていきます。引き続きお読みいただけましたら幸いです。

ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

雨の日も楽しく！人気の集団あそび特集

雨の日が続くと、室内で過ごす時間が増えていきます。
塩田教室では、そんな時間の中で集団あそびを楽しんでいます。
教室内では、お子さん達の笑顔やにぎやかな声があふれ、友達同士で声を掛け合いながら遊ぶ姿が見られています。
今回はその中でも、特に人気の高い「集団あそび」をご紹介します。

人気の集団あそび



信頼キャッチボール

リーダーと向かい合って一列に並び、順番にボールをやり取りしていく活動です。
ボールを投げた後はしゃがみ、次のお子さんへと順番につないでいきます。
自分の順番を意識しながら取り組むことで、順番を待つ力や集中する力につながります。



みんなでキャッチボール

全員で円になり、「せーの」の合図で一斉にボールを回します。
タイミングを合わせる事がポイントとなり、息を合わせる難しさと感じる活動です。



みんなでペン回し

隣のお子さんへペンを回していく活動です。
相手が取りやすいように渡すことや、しっかり受け取ることなど、相手を意識した動きが求められます。
慣れてきたら「反対」の合図を加え、判断する力にもつながっていきます。



ボール回し風船バレー

風船1つとボール1つを使い、役割を分担しながら行なう活動です。ボールで風船をはじいた後、次のお子さんへボールを渡します。
ボールを受け取ったお子さんが、再びボールで風船をはじきます。
周囲の動きを見ながらタイミングを合わせることで、協力する力や相手を意識する力につながっていきます。



協力風船ラリー

風船が床に落ちる前に、次のお子さんが風船をはじくりレー形式の活動です。
「落とさないようにしよう」と声を掛け合いながら、協力して取り組む姿が見られます。

集団あそびの魅力

集団あそびは、1人では味わえない楽しさや高揚感を感じることができる活動です。
お友達と同じ目標に向かって取り組む中で、「できた！」という達成感を共有することも大きな魅力です。活動を通して自然と会話が生まれ、友達同士で声を掛け合ったり応援し合ったりする姿も見られます。
こうした経験を重ねることで、次のような力につながっていきます。

- ・ルールを共有する力
- ・相手の動きを意識する力
- ・声を掛け合う力
- ・協力する力

など、社会性やコミュニケーションに繋がる力を育むことができます。

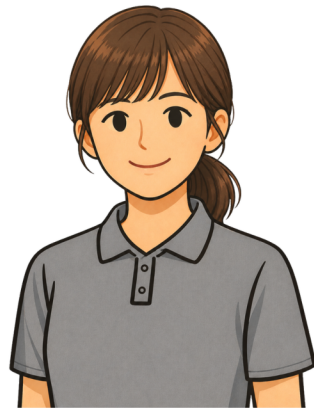
活動を通して

初めは職員が関わりながら、2人程度の小さな集団から始め、少しずつ人数を増やしていくことで、安心して取り組むことができます。
雨の日が続く季節の中でも、お子さん達が楽しく関わり合いながら過ごせる時間を大切にしています。
今後も、お子さん一人ひとりの様子に合わせてながら、安心して取り組める活動を行なっていきます。

職員インタビュー

毎月、全国のこどもプラスの教室で働く職員さんをご紹介します。

運動遊びと療育支援こどもプラス柏たなか教室 M先生



実習先で感じた、保育の奥深さ

もともとこどもが好きで、大学では保育の資格が取れる学科に進みました。資格取得のきっかけとして大きかったのは、実習先で出会った職員の方々の姿です。実習先では、職員の方々が生き生きと働き、お子さんから信頼されている様子がとても印象に残っています。運動などを取り入れたオリジナルの保育や、それぞれの得意分野を活かした関わり方を見て、保育はとても深い世界だと感じました。また、そこで過ごすお子さんは、生き生きとしていて、自分から様々なことに挑戦していました。そうした姿を見て、私自身も周りの方々と一緒に成長しながら、お子さんに関わっていきたいと思うようになりました。

療育だからこそできる支援を求めて

以前勤めていた幼稚園では、インクルーシブ保育に力を入れており、障がい特性のあるお子さんや外国籍のお子さんに関わる機会がありました。関わる中で、「どこまで理解できるのだろう」「どこまで求めていいのだろう」と悩むこともあり、専門的な知識が十分ではない中で葛藤を感じる場面も多くありました。それでも、一人ひとりと向き合うことで見えてくる姿がありました。同じ遊びを繰り返していたお子さんが、



お友達との関わりをきっかけに変わっていく姿を見て、集団だからこそ見えるお子さんの様子があることも感じました。また、療育施設の職員の方々と協力する機会があり、具体的な支援方法を学ぶ中で、もっと様々なお子さんへの理解を深めたいと思うようになりました。集団の中だけではできない支援もあり、その子が今必要としていることを丁寧に提供できるのが療育だと感じ、放課後等デイサービスの仕事に関心を持つようになりました。集団の中で見せる姿と、個別で関わった時の姿は違うこともあり、どちらの姿も大切にしながら関わることにも魅力を感じています。

また、幼稚園では卒園後に関わる機会が少なくなりますが、小学校に上がってからつまづきを感じるお子さんのサポートもしたいという思いがありました。頑張っているお子さん達の居場所になればという思いも、放課後等デイサービスを選んだ理由の一つです。

小さな頑張りを見つけて認めること

支援の中では、お子さんの小さな頑なりに気づき、認めることを大切にしています。結果だけでなく、過程の中にある見えにくい頑なりに目をつけたいと心がけています。例えば、失敗や勝負に負けることが苦手なお子さんが、悔しい気持ちを「もう1回」と表現できた時など、その子なりの頑張りが見えることがあります。そうした姿を見逃さずに伝えることで、お子さんの自信に繋がってほしいです。

お子さんの「楽しい」が挑戦に変わる瞬間

お子さん達が喜んでくれていると感じる時に、やりがいを感じます。考えてきた運動プログラムのストーリーに楽しく参加してくれた時は、「考えてきてよかった」と思います。また、お子さんから「もっとこうしたい」といったことばが出てきた時には、挑戦したい気持ちが育っていることを感じます。そうしたやり取りを通して、お子さんとの距離がぐっと縮まるように感じることも嬉しい瞬間です。



少しずつ見えてきた、お子さんの変化



当時年中の男の子で、集団の運動には入れるものの、表情が固く、ことばがなかなか出ないお子さんがいました。表現が苦手で、環境の変化に戸惑う様子や緊張感も感じられました。信頼関係を築くまでには時間がかかり、ダンスなどにも苦手意識があって固まってしまうことがありました。「どうしたら集団の中で楽しく過ごせるかな」と考えながら、その子のことを知ろうとし、職員同士でも振り返りを重ねていきました。その中で、少しでも安心して楽しめるよう、関わり方を工夫したり、楽しめる方法を探しながらプログラムを考えたりしていきました。すると、1年近く経った頃から少しずつ変化が見られ、表情が柔らかくなったり、冗談に笑ってくれたりする姿が増えていきました。今では自信を持って活動に参加してくれており、「こんなの簡単じゃん」と笑顔で話してくれたり、自分から発言したりする姿も見られるようになっています。

気持ちを受け止め、前向きな支援へ

保護者の方からは、「お家での様子と外での様子が違う」「気持ちのコントロールが難しい」といったご相談をいただくことがあります。ご相談は対面だけでなく、メールなどでいただくこともあり、必要に応じて面談に繋がっています。保護者支援では、まずは保護者の方のお気持ちをしっかり聞くことを大切にしています。限られた時間の中で、お子さんと向き合いながら日々頑張っている保護者の方も多くいます。その思いを受け止めながら、これからどう成長していけるかを一緒に考えるようにしています。また、保護者の方はお子さんへの期待があるからこそ、課題に目が向きやすくなることもあります。そのため、教室で見られた頑張りやできたことなど、前向きなお話もお伝えするよう心がけています。

それぞれの強みが活きる、温かいチーム

日々の支援の中では、職員同士でこまめに声を掛け合い、お互いを尊重しながら支援を行なっています。それぞれに強みがある職員が多く、その強みや経験が自然と活かされていることを感じる職場です。イベントなどでも、一人ひとりの経験や得意分野が活かされています。調理師の経験がある職員、美術系の知識がある職員、大人が通う障がい施設で勤務していた職員など、様々な経験を持つ職員がいます。それぞれの得意分野を活かしやすい雰囲気があり、一人ひとりの経験が重なり合いながら、教室全体の支援に繋がっています。そうした温かいチームの雰囲気も教室の魅力の一つだと感じています。

